ぴーぷる

本田（ほんだ）　康秀（やすひで）

国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道企画課
課長補佐

◆これまでの経歴は

平成７年に建設省都市局下水道部流域下水道課に新規採用され，平成10年に河川局河川計画課，平成12年に下水道部下水道事業課を経て，平成14年に関東地方整備局横浜国道事務所に配属されました。平成16年には内閣官房副長官補付となり，安全保障危機管理を担当しました。平成18年から下水道部に戻り，下水道事業課課長補佐を経て，現在に至っています。

◆現在の担当業務は

下水道に関する政策等の総括，広報を担当するとともに，下水道分野に関する国際協力活動の推進に向けた方策の検討を重点的に進めています。

◆本機構と行った仕事，本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

下水道新技術推進機構とは多くの仕事でご一緒させて頂きましたが，特に印象に残っているのが，下水道未普及解消クイックプロジェクト社会実験です。

財政難，人口減少，少子高齢化といった厳しい社会情勢のもとで下水道の未普及地域の解消に尽力する市町村に対し，機構の優秀なスタッフの方々が，遠路の出張をも全く厭わず，計画から建設，維持管理に至るまで懇切丁寧に技術支援されている姿が非常に心強かったです。

学識経験者の方々や国土技術政策総合研究所との連携もフットワーク軽くこなして頂き，市町村の財政，執行体制が厳しくなる中，このような団体の活動意義がますます重要になってくるものと確信しています。

近年頻発している地震への対応についても，非常に素晴らしい報告書を作成して頂いています。国土交通省下水道部として政策を進めていく上でも，非常に心強いパートナーです。

後藤（ごとう）　太（ふとし）

(株)極東技工コンサルタント
中部支社　技術センター
設計部次長

◆これまでの経歴は

平成２年から３年ほど公共測量や大規模開発に伴う認可申請の業務を行った後，平成５年から現在に至るまで，下水道および上水道の設計に携わっています。

下水道の設計は，主に管路施設の実施設計を行ってきましたが，浸水対策・管路診断などの業務も行ってきました。下水道の設計に携わった当初は，下水道の普及率も50%ほどで，下水道事業量も多く，慌ただしかったことが印象に残っています。

◆現在の担当業務は

現在，主に中部地方の地方公共団体の業務を行っています。私の勤務地では，下水道普及率を上げるための整備をしている地方公共団体が多いため，管路施設の実施設計が主な担当業務です。他にも地震対策・浸水対策などの業務も担当しており，上水道の配水管設計業務も行っています。

下水道機構で得た知見を活用し，今後の業務に活用していきたいと考えています。

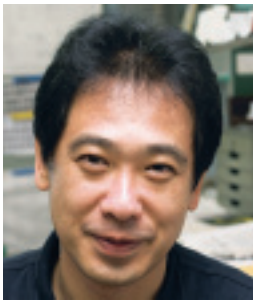
◆本機構と行った仕事，本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

私は，平成18年４月から２年間，下水道機構に在職し，貴重な経験を積ませていただきました。

下水道機構在職中は，建設技術審査証明事業に携わり，多くの新技術に係わらせていただきました。また，産官学の様々な方と仕事をさせていただき，貴重な経験と知見を広めることができました。

社会・地域ニーズの変化，下水道に求められる役割の多様化，建設の時代から管理・経営の時代へと転換を迎える中で，下水道機構ビジョンを策定し，その実現に向けたアクションプランがスタートしたことより，今後も新技術の橋渡し役として益々発展していくことを期待し，また，フォローアップにも期待しています。

ぴーぷる



島田（しまだ）　英樹（ひでき）

九州大学大学院工学研究院
地球資源システム工学部門
准教授

◆これまでの経歴は

昭和63年に九州大学工学部資源工学科を卒業し，平成５年同大学院博士課程を修了後に助手採用，平成７年に助教授に昇任して現在に至っています。平成７年までは石炭鉱山の岩盤掘削に関する研究を行っていましたが，国内の石炭鉱山の閉山に伴い，それまで培ってきた技術や蓄積してきた知見を資源開発の他分野に拡張したいという発想から，地下ライフラインの敷設に関する研究に推移してきました。

現在では，推進工法による管きょ敷設に関する研究のみならず，今後の下水道事業で大きな問題になるであろう老朽化に伴う管更生工法に関する研究にも着手しています。

◆現在の担当業務は

地球資源システム工学部門に所属していることから，資源開発および地下開発に伴う岩盤工学や発破制御工学についての教育を主に行っています。したがって，海外の露天掘り鉱山の開発から環境修復までの過程を講義や研究活動などで学生に指導をしています。また，最近では地下利用システム工学という講義名で資源開発にとどまらず，都市ライフラインの概要についての解説も行っています。

◆本機構と行った仕事，本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

下水道機構では，建設技術審査証明特別委員会委員長を仰せつかり，民間で開発された下水道の建設技術の技術的な審議を行っています。なかでも，既設管の老朽化対策として適用されている管更生工法についての評価が私の仕事ですが，現在のところ，品質確保の統一的な評価のあり方や耐震に関わる評価項目などが暫定的な考え方を基にして作成されていることから，今後検討を加え，きちんとした評価手法の確立を行わなければならないと考えています。

小山（こやま）　幹治（かんじ）

（財）下水道新技術推進機構
事務局長

◆これまでの経歴は

建設省に入省し，35年余にわたって本省を中心に，地方出先機関や他省庁などで勤務してきました。この間，官房人事課をはじめとする官房系の勤務が主でしたが，日本下水道事業団での勤務もございました。

この時下水道の技術者と接する機会がございましたが，話が阪神・淡路大震災の件に及ぶと「大切なライフラインは決して電気・ガスや上水道だけではない。下水道機能の維持こそ重要なんだよ」と，力の入った語り口が今でも忘れられません。

◆これまでで思い出に残る仕事は

平成11年４月に，国土庁で約２年後に予定されていた未曾有の省庁再編に伴う職員配置の仕事をさせて頂きました。国土庁の主体は建設省，運輸省，北海道開発局と再編されることになっていましたが，内閣府や農水省，総務省などへの組織替えや廃止など，国土庁の組織は見事に分解されるハメになりました。

国土庁にはプロパーの職員もいましたが，20を超える省庁からの人事交流で構成された組織でもありました。そのため，職員一人一人を新組織のポストに当てはめなければいけなかったのですが，親元の人事担当者からは「このポストは経験がないから替えて欲しい」などと言いたい放題の注文が相次ぎ，最初は丁重に対応していましたが，再編間際の最終コーナーではまさに窮鼠猫をかむ折衝を幾つもの省庁とやりあいました。今ではとても懐かしい思い出です。

◆今後の抱負をお聴かせ下さい

公益法人を取り巻く環境は大変厳しく，制度改革を眼前に為すべきことは沢山ありますが，先人達が営々と築き上げてきた「下水道機構」をより発展させるべく，その一助となれるよう努めて参ります。